
福祉社会学会ニュースレター 第54号

Japan Welfare Sociology Association Newsletter No.54

<http://jws-assoc.jp/>

E-mail: maf-ws@mynavi.jp

目次

- * 事務局からのお願い
 - * 大会関係
 - * 2018年度活動方針
 - * 第17回大会のお知らせ
 - * 『福祉社会学研究』第15号刊行と第16号の投稿募集
 - * 理事会報告
 - * 『JCSS Newsletter』ISAカナダ・トロント大会特集号
 - * 新入会員紹介
-

* 事務局からのお願い

所属やアドレスを変更された場合は、毎日学術フォーラム (maf-ws@mynavi.jp) あてに御一報下さるようお願い申し上げます (変更は一か月以内に反映されます)。

* 大会関係

【第16回大会】第16回福祉社会学会大会が、2018年6月16～17日に中京大学豊田キャンパスで開催されました。参加者は99名でした。

【総会報告】大会初日の午前中に理事会が開催され、2日目午後には総会が開催されました。総会の冒頭、藤村正之会長の挨拶があり、引き続き山下亜紀子会員(九州大学)が議長に選出され、山下議長の進行のもと報告と審議が行なわれました。

●報告事項・審議事項

1. 庶務・事務局：上村庶務理事・事務局長より、学会の現況について以下の報告があった。
(1)2018年6月17日現在の会員数は470名である。(2)最近、数名の会員にメール版ニューズレターが届かないことがあった。今後はこのようなことのないよう慎重を期したい。
2. 研究委員会：上野研究委員長より以下が報告された。(1)15回大会の報告申込数は、自由報告29、テーマセッション報告8の合計37件であった。大会参加費等事前振込件数は59件であった。(2)2017年度は1回の研究会を開催した(EU福祉レジーム・市民権研究会・社会政策学会との共催)。(3)来年度から学会大会予稿集のオンライン化を検討したい。
3. 編集委員会：下夷編集委員長より以下が報告された。(1)『福祉社会学研究』15号が刊行された。(2)『福祉社会学研究』第16号の刊行方針を定めた。(3)J-Stageへの登載に向けて事務局より申請を行なった。(4)本年5月の執筆要領の改訂は見送り、15号と16号の編集作業をふまえて来年5月改訂を目途に作業を進める。
4. 社会政策関連学会協議会：菊池担当理事より以下が報告された。(1)2017年度には協議会が2回開催された。(2)2018年6月30日にシンポジウム(「初めての査読論文——経験者が語る投稿から掲載まで」)を開催予定である。
5. 2017年度決算の提案・監査報告：鎮目財務委員より2017年度決算案が提示された。続いて小沢修司監事より同案の監査報告が示され、承認された。
6. 2018年度活動方針の提案：藤村会長より「2018年度活動方針案」が提示され、承認された。
7. 2018年度予算の提案：鎮目財務委員より2018年度予算案が提示され、承認された。
8. 顧問の推挙：藤村会長より三重野卓会員を顧問に推挙する旨の提案が行なわれ、承認された。
9. 第17回大会開催校の提案：藤村会長より、2019年大会を明治学院大学白金キャンパスで開催することが提案され、承認された。開催校の岡本多喜子会員より挨拶があった。

* 2018年度活動方針

1. 福祉社会学会は、これからも、福祉(welfare, well-being)や社会政策の社会学に関心を持つ研究者中心の学術団体として活動していきます。
2. 第16回大会を、2018年6月に中京大学で開催します。2019年度開催の第17回大会についても、その準備を進めていきます。

3. 機関誌『福祉社会学研究』の第16号の刊行に向けて、編集作業を進めていきます。また、電子ジャーナル化に向けての検討も進めていきます。
4. 大会に加えて、多様な研究テーマに基づく研究活動に積極的に取り組みます。
5. 日本学術会議の協力学術研究団体として、いっそう他の学術団体との連携につとめていきます。
6. 機関誌のJ-STAGEへの登載など、研究成果の対外的発信にいっそうつとめていきます。
7. WebやEmailを活用し、事務の外部委託による効率化などによって、会員への情報・サービス提供の充実と事務作業の簡便化を進めるとともに、確実な情報提供につとめていきます。

* 第17回大会のお知らせ

第17回大会は、2019年6月15～16日に明治学院大学で開催されることになりました。詳細は決定次第、ニューズレターおよびホームページでお知らせいたします。

* 『福祉社会学研究』第15号刊行と第16号の投稿募集

● 『福祉社会学研究』第15号(Journal of Welfare Sociology, No.15)が刊行されました。目次は以下のとおりです。

| 特集 福祉社会学とソーシャルワーク研究 |

- ・ 特集解題：福祉社会学とソーシャルワーク研究（菊池いづみ）
- ・ ソーシャルワーク実践研究の目的（副田あけみ）
- ・ 「社会的なもの」（ソーシャル）の仕事（ワーク）と社会学のあいだ
——反転したジェンダーロールと在来知（三島亜紀子）
- ・ 「ソーシャルワーカーの社会学」に向けて（竹端寛）

自由論文

- ・ひきこもり経験者による当事者活動の課題と可能性
——当事者概念の再検討を通じて（関水徹平）
- ・「里親の不足」の意味するもの
——なぜ「里親は足りない」のか（三輪清子）
- ・「子育ての社会化」施策としての一時保育の利用にみる母親規範意識の複層性（工藤遥）
- ・メンタリングは働く人のキャリア課題の対処資源となり得るのか
——メンターおよびメンティの性別による差異の検討（榊原圭子）
- ・一般的信頼と福祉国家への支持
——ISSP のデータを用いたマルチレベル分析（池田裕）
- ・事業変遷下の地域若者サポートステーションの支援意義に関する考察
——支援職員の支援観に着目して（小山田建太）
- ・遠距離介護における SNS を用いた遠隔コミュニケーションの会話分析的研究（中川敦）
- ・身体接触を伴うケア実践における性別の話題化はどのようになされているのか
——足湯ボランティア活動の相互行為分析（須永将史）
- ・介護福祉士の職業教育訓練による職務認識の差異
——「尊厳と自立」概念に着目して（鈴木由真）

書評

- 三谷はるよ『ボランティアを生みだすもの——利他の計量社会学』（西浦功）
原田謙『社会的ネットワークと幸福感——計量社会学でみる人間関係』（中田知生）
安藤藍『里親であることの葛藤と対処——家族的文脈と福祉的文脈の交錯』（藤間公太）
藤間公太『代替養育の社会学——施設養護から＜脱家族化＞を問う』（安藤藍）
時岡新『＜不自由な自由＞を暮らす——ある全身性障害者の自立生活』（前田拓也）
株本千鶴『ホスピスで死にゆくということ——日韓比較からみる医療化現象』（森川美絵）
鍾家新『在日華僑華人の現代社会学——越境者たちのライフ・ヒストリー』（上村泰裕）
米澤旦『社会的企業への新しい見方——社会政策のなかのサードセクター』（須田木綿子）

●『福祉社会学研究』第16号の原稿募集について

下記要領で、『福祉社会学研究』第16号の自由投稿論文を募集します。

1. 投稿資格： 本会会員に限ります。2018年度の加入者については、2018年の大会時までに入会済みであることが条件となります。
2. 論文の種類： 自由投稿論文

福祉社会学研究の学術論文とします。

3. 掲載の可否： レフェリーの査読結果に基づき、編集委員会が決定します
4. 締切： 2018年9月3日（月）23時59分必着
5. 論文の分量： 20,000字以内（図表等含む）とします。スペースは字数に含めません。
6. 投稿規程・執筆要領：
 - ・投稿規程、執筆要領は『福祉社会学研究』最新号および学会ウェブサイトでかならず確認してください。論文の分量が超過するなど、投稿規定や執筆要領が守られていない場合には、投稿論文を受け付けません。
 - ・書式等形式については、投稿規程・執筆要領の遵守を第一とし、投稿規定・執筆要綱に記載されていない点については、日本社会学会編集委員会『社会学評論スタイルガイド』第2版 (<http://www.gakkai.ne.jp/jss/bulletin/guide.php>)への準拠をお願いします。
 - ・投稿は紙媒体ではなく電子ファイルで行います。投稿の際は、ワードの文書ファイルの形式で、メールにて下記編集委員会事務局までお送りください（パスワードを付けた場合には別のメールにてパスワードをお知らせください）。紙媒体の提出は一切必要ありません。なお、原則として、編集委員会に届いたファイルの差し替えはできませんので、十分に確認のうえ、お送りください。
 - ・投稿論文を添付するメールの件名は「自由投稿論文送付の件」としてください。
7. 提出先・問い合わせ先：

〒470-0136 愛知県日進市竹の山3丁目2005
椋山女学園大学 人間関係学部 人間関係学科
株本千鶴研究室 福祉社会学会 編集委員会事務局（投稿論文担当）
（メールアドレス jws-henshu★ouj.ac.jp ←★を@に変えてください）
8. 受領通知： 投稿受領後に受領通知をお知らせします。受領通知の発行をもって、論文の投稿が成立します。投稿後1週間以上経過しても受領通知が到着しない場合には、上記編集委員会事務局までお問い合わせください。

●書評対象書の募集について

『福祉社会学研究』第16号でとりあげる書評対象の著作を募集します。

福祉社会学および関連分野の書籍で、会員の著作であること、単著であることを原則としますが、共著・編著でも書評対象とすることがあります。編集委員会書評担当まで、1冊の献本をお願いします。なお、ページ数に限りがあるために、すべての著作を取り上げることはできません。献本は、2018年9月3日（月）まで受け付けます。

送付先・問い合わせ先：

〒194-0298 東京都町田市相原町4342
法政大学社会学部 堅田香緒里研究室

福祉社会学会 編集委員会（書評担当）

（メールアドレス jws-henshu★ouj.ac.jp←★を@に変えてください）

●会員の刊行書籍情報の募集について

『福祉社会学研究』第16号刊行に向けて、会員の活動状況を広くお知らせするために、2018年1月～2018年12月末までに刊行された会員の単著、編著等の書籍情報（雑誌掲載論文等は除く）について、その情報（著者、書籍名、刊行時期、出版社）を、編集委員会（jws-henshu★ouj.ac.jp←★を@に変えてください）までお知らせください。メールの件名は「会員の刊行書籍情報の件」としてください。書籍情報は、2019年1月15日（火）17時00分まで受け付けます。

* 理事会報告

●2018年度第1回理事会議事録（前掲総会報告と重複する部分を一部省略）

日時：2018年6月16日 11:30～12:45

場所：中京大学豊田キャンパス8号館85C

出席者：藤村、平岡、上村、上野、安立、阿部、天田、亀山、菊池、金、鎮目、寺田、宮垣

●報告事項・審議事項

1. 第16回大会運営について：実行委員長の亀山理事より開催・運営に関して報告があった。
2. 研究委員会報告：上野委員長より報告があった。
3. 編集委員会報告：寺田副委員長より報告があった。
4. 社会政策関連学会協議会報告：菊池理事より報告があった。
5. 2017年度決算案の承認：鎮目財務委員より決算案と監査結果の説明があり、審議の結果、決算案を承認した。
6. 2018年度活動方針案：藤村会長より原案が提案され、協議の上、総会に諮ることを承認した。
7. 2018年度予算案の承認：鎮目財務委員より2018年度予算案の説明があり、審議の結果、総会に諮ることを承認した。
8. 顧問の推薦：藤村会長より三重野卓会員を顧問に推薦することが提案され、総会に諮ることを承認した。
9. 第17回大会について：2019年に明治学院大学白金キャンパスで開催することを承認した。

10. 新規入会者の承認、退会希望者の確認、会員状況報告：上村庶務理事より会勢報告があり、6月16日現在の会員数は448名であることが報告された。引き続き、新規入会者22名の承認と退会者の確認が行われた。

11. その他関連事項：保健医療社会学会との連携について藤村会長より提案があり、承認された。

12. 総会の運営について：上村庶務理事より総会の議事次第案が提案され、審議の結果これを承認した。

13. 次回理事会（2018年度第2回）を2018年12月22日（土）午後の上智大学で開催することを決定した。

* 『JCSS Newsletter』ISA カナダ・トロント大会特集号

社会学系コンソーシアムから、カナダ・トロントでの2018年7月の第19回世界社会学会大会の開催に合わせて『JCSS Newsletter』特別号が発行されました。福祉社会学会からのメッセージも掲載されていますのでごらん下さい（14頁）。

http://www.socconso.com/newsletter/JCSSNewsletter_ISASpecialIssue.pdf

* 新入会員紹介

（Web版では省略）

【編集・発行】福祉社会学会事務局